

突然ですが、問題です。平成29年度中に交通事故で亡くなった方（交通事故死者数）と、自ら命を絶った方（自殺者数）はどちらが多いと思いますか？

どちらも残された方にとつては、突然の出来事であり、心に影をおとすつらい出来事です。だからこそ、少しの注意やこころ配り、少しの行動で守れる命があるということ、私たち一人ひとりが知っていることは大事なことでないでしょうか。

さて、先ほどの問題の答えですが、交通事故で亡くなった方は3,694人（平成29年中の交通事故死者数）交通局交通企画課広報資料）、自ら命を絶たれた方は2万1,321人（平成29年中における自殺の状況）厚生労働省自殺対策推進室・警察庁生活安全局生活安全課資料）と報告されており、実は



交通事故の約6倍の多さで自ら命を絶つ方がいるのです。その原因は、「これ」といった一つの原因というよりも、健康問題や経済・生活問題、家庭問題など、様々な要素や背景が連鎖して深刻になっていることが多く、追いつめられていく中で「死」になってしまふのです。その過程では、「うつ病」を発症している場合が多く報告されています。また、年代別に見てみると、40代から60代の方の割合が多く、職業別では「無職者」が57・6パーセント、次いで「被雇用者・勤め人」が30・2パーセントという割合になっています（出典：前述「自殺の状況」）。

この状態は非常事態であり、国も「自殺対策推進計画」を出しています。計画のポイントは①自殺が追い込まれた末の死であるという認識をもつこと、②「生きる」ことの阻害要因を減らし、「生きる」ことの促進要因を増やすこと、③そのために地域での連携と個人への啓発と支援をしていく、ということとです。つまり、ギリギリまで追い込まれる前に、人とのつながりや信頼関係、その人だからこそできる役割を見出し、様々な悩みや負担感、喪失感、無力感に寄り添えるように具体的に行動していくこと。その

ために社会制度や地域も、人と人とのつながりづくりをサポートしていくことが大切なのです。

私たちも身近なところで無理をしない範囲で気配り、気づき、声かけ、傾聴（話を聴く）といったことはできます。さらに見守る、適切なところにつなぐ、といったこともできません。専門性の有無にかかわらず、誰にでもできることではありますが「自殺対策推進計画」の中では、こうしたことのできる人のことを「ゲートキーパー（命の門番）」といいます。一人でも多くの方がゲートキーパーとしての意識をもって、それぞれの立場で草の根的に行動を起こしてもらおうことが、自殺対策につながります。自ら命を絶つということは、私たちに関係のないことではなく、自分の身近な人のことに成り得ることなのです。日頃からつながりを大切にし、一人ひとりの命を見守りあつていきたいですね。

放課後 子ども教室
安全管理員募集

放課後子ども教室とは
小学生が放課後に児童館を利用し、宿題をしたり、遊んだりするところです。また、月一回の体験教室では地域の方々の力を借り、様々なスポーツや文化を体験することもできます。

安全管理員の仕事
放課後子ども教室を利用する子どもたちの安心と安全を見守ります。

勤務場所
中地区児童館
西地区児童館

勤務時間
平日15時から18時まで
(時給制)

応募資格
子どもが好きな方
詳しくは、問い合わせください。

【申し込み・問い合わせ】
こども教育課 児童係
☎45-8672

放課後 子ども教室
安全管理員募集

**『子育て』を
応援してください**

入園希望者が多いため、引き続き臨時職員を募集しています。
詳しくは、問い合わせください。

【申し込み・問い合わせ】
こども教育課 児童係 ☎45-8672

職 種	保育士
資 格	18歳以上で65歳以下の保育士資格を有する方
募集人員	若干名
募集期限	随時
勤 務	7時30分～19時（シフト制）
休 日	週休2日（休日出勤あり）年末年始
給 与	日額 8,050円
待 遇	通勤費支給（規定有） 社会保険加入